

平成19年1月4日

<年頭のあいさつ要旨>

横浜信用金庫 理事長 斎藤 寿臣

- (1) 昨年日本経済をみると、バブル崩壊後十数年にわたった景気低迷の時期もようやく終わり、緩やかではあるが着実な回復軌道をたどっています。
- (2) 当金庫の毎月の貸出案件をみても業種的に大変バラエティに富んできており、資金需要が盛り上がってきているのを感じます。
- (3) 今年は景気回復が進捗することを期待していますが、次の三点が今年の課題と考えます。
第一は当金庫の定評、すなわちお客様からみて信頼のおける金融機関であるとの評価をますます確かなものにすることです。職員一人ひとりが信頼のおける人物であることが大事です。堅実な生活態度、約束は必ず守ることに心がけてください。業務面でも決められた事務手続きによる正確な事務処理に努めてください。
第二は業容の拡大です。融資についてはようやく勢いがでてきました。従来どおり預貸併進に心がけてください。
第三は適正な利鞘の確保です。昨年9月の貸出金利の引き上げは十数年ぶりでした。お客様はとまどわれたと思いますが、ご理解をいただくことができました。ただ年度内にも再度の引き上げが予想されております。預金金利の引き上げが考えられますが、つねに適正な利鞘が確保できるよう留意してください。
- (4) 最近の横浜における大手企業の本社や研究所の進出予定、大規模商業施設の開業や開業予定とその活発さに驚かされます。全国で最も活力のある地域の一つといえます。これらは横浜地区全体の活力となって必ず当金庫にも好影響がでるものと期待しています。

たしかな明日のお手伝い



神奈川・東京に60店舗